

会 議 錄

■会議名	令和6年度第2回神河町子ども・子育て会議
■日 時	令和6年8月21日(水)13時30分～
■場 所	大河内保健福祉センター 福祉講習室
■進 行	<p>1 開会 2 あいさつ 3 報告事項 (1)中学生アンケート調査結果について【資料1】 (2)第3期神河町子ども・子育て支援事業計画骨子案について【資料2】 4 その他 5 閉会</p>
■協議内容	<p>○会長挨拶</p> <p>今日のテーマの会議は家族ではないかと思う。子育て支援の中で、『家族のあり方』というのが副題で上がってくるのでは。最近の家族トピックというのは『お盆』ではないか。私は、父親の里の方に行き、いとこ会をした。私の祖父の代からずっとやっているので、50年以上続いている会だが、世代が変わってもなお、細いけれどもなんとなくつながっている状況。人のつながりの場が減ってきてているのがコロナ以降の令和の時代であるが、こういう会が持てることはありがたいことだなと思っている。</p> <p>今日の会議は、中学生のアンケートと、計画の基本的な考え方について、事務局から説明を受けながら協議していきたいと思います。</p> <p>岸田首相は「異次元の」とよく言葉を使われるが、私たちの子育ての時代とは違う新しい子育て支援をしていかないと、少子化対策ができない事態に来てしまっている。我々の経てきた子育ても大切にしながら、これから迎える世代に向けての良い意見が出ればいいなと思う。神河町らしい子育てができるような子育てにつながるような意見をお願いしたい。</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 中学生アンケート調査結果について</p> <p>○事務局説明</p> <p>(2) 第3期神河町子ども・子育て支援事業計画骨子案について</p> <p>○事務局説明</p> <p>森本委員長 (保護者アンケート調査結果について)子育ての負担を感じている人が少ないのは意外だった。子育てに「両親ともに関わっている」という回答が多いのは時代のせいだと思う。祖父母との同居は2割で全国平均と同じ。身近に住んでいるというのがあるのでは。前回の会議で高崎委員が三世代同居について話したが、価値観の違いで大変。馴染むのに10年かかる。いい</p>

	<p>距離感を保つことが大切。スープの冷めない距離に住む。しかしこれに甘んじると時代遅れになる。核家族も含めた新たな施策の展開が必要。安心して子育てができる施策をお願いしたい。</p>
委員	<p>アンケート調査を見て、学校として、全体的にはこのような結果なのだなと思った。現場では生徒が安心して生活できているかどうかを個々の視点で見ている。こういう見方はあまりない。神河町の良さ。(アンケート調査結果では)相談先として「学校の先生」を選んだ人は 17.3 パーセントだが、子育ての相談全体の中で学校に相談するような内容のものは、限られていて、この程度なのだと思う。</p>
委員	<p>アンケートで、「将来結婚して家族を持ちたいと思いますか」の設問で「思う」の割合が予想より高かった。私は、三世代同居しているが、そんなにうまくいっていない。親の助けをあまり受けられないし、気兼ねしている。我が家に中高生がいるが、子どもの送迎の問題がある。姫路の高校に朝早く行く必要があり、帰りも塾に行っているので夜遅くに迎えに行く必要がある。結婚して実家に帰る時に、こんなに大変だとは考えていなかった。三世代住むからといって、いいわけではないと思う。</p>
委員長	<p>うちもだが、助けはほぼ無い。</p>
委員	<p>本日欠席しているが、本園の PTA 会長のお宅は、スープの冷めない距離に実家がある。旦那さん側の実家の畑に祖父母がなすびを植えて孫の名前を付けてもらったら、子どもが喜んで(実家に)行くようになった。そのことがきっかけで、自分たちの家にも畑を作り、朝晩、水やりをして、野菜を育てることが喜びとなっていました。やっと収穫ができるようになってきた時、事件が起きた。朝起きてみると、動物に食べられてしまっていた。ショックを受けた子どもは、母親と相談したり、近所の畑を観察に行ったりして、網を取り付けてまた野菜を作った。野菜作りを通して、子どもとのかかわりを楽しんでおられる。専業主婦で、子ども目線を大切にされている素敵なお人。祖父母ともいい距離感で生活されている。</p>
	<p>祖父母とは価値観や子育て観の違いはあるが、孫はいろんな人と触れることで、いろいろな考え方を知ることができるメリットがある。家族の中でどうバランスを取って調和することは難しいが大切で、目に見えない、人の距離感や人の気持ちを推し量る力が身についてくるのではないかと思う。自分がおばあちゃんの世代になって、時代が変わってきた。産休・育休は充実してきたが、仕事に復帰したときにどうか。祖父母が支援するネットワークはあるか。学童期に入ったときにまたシステムが変わってくる。神河町は、子育て支援も充実していますが、課題は田舎もまちも同じだと思う。</p>
委員長	<p>育休明け復帰後のフォローにはあまり熱心でない祖父母。どうやって祖父母を上手に取り込んでいくか。その仕組みづくり・場づくりがあつてもいい。電話がないので連絡できないなど。放課後のグラウンドを開放するとか</p>

	<p>も課題になるかもしれない。</p>
委員	こちらのアンケート調査結果は、当園職員に開示していいか。
事務局	はい。
委員	23 ページの一時預かり事業について、幼稚園と保育所の事業が全く同じに見える。しかし、利用者の人数の差が大きいため、保育所が何もしていないと思われる恐れがある。
事務局	こういった事業名が国で決められている。
委員	保護者から一時預かり保育でなぜ受け入れてくれないか、と言われる。
事務局	幼稚園の一時預かり事業は入園者のみ。それぞれ説明文を入れるのは可能なので、説明を入れるようにする。
委員長	分母(対象者数)も明確にしてはどうか。
事務局	事業の要件から分母(対象者数)は、出ません。保育所の一時預かりは、町外の人も利用できるため。
委員長	(説明文の追加については)検討事項ということでお願いします。
委員	今年、町内で子どもが全く生まれていない。今が大きな節目だと思う。施設が維持できるかが大きな問題になっている。園では子どもたちが変わっている。生活概念の理解が低くなっている。僕らの責任だ。「トライやる・ウィーク」の子どもはしっかりしている。男の子は将来の明確なイメージを持っている。学校化社会はしんどい。昔は地域社会があったが、今は崩壊している。家庭が教育力を持てない。だから全部学校にというのはおかしい。(学習指導要領の)3つの柱の中に、学びに向かう力、人間性がある。これは、自分たちの道しるべになるだろう。接続の問題がある。小学校の先生が幼児教育を見たほうがいいのでは。就学前教育がアクティブラーニング(個別最適な学び)でないといけない。環境に基づく教育でないといけない。3つの柱が今後の評価基準になると思う。アンケート調査結果をどう提案していくかを考えていきたい。子どもたちは生まれてから保育、学童、塾・受験、ずっと大人の目に見られている。秘密基地もできない。子どもにとっては不幸ではないか。親と一緒にいることが幸せではない。
委員長	今年度の出生数は何人ですか?
事務局	現時点(7月末)で4人です。
委員長	予定数は?
事務局	わかりません。
委員長	町民が一番びっくりする。視点が変わってくるかも。
委員	12 ページにお子さんを見てもらえる人がいるかという問い合わせのことです。姑が近くに住んでいるが、フルタイム勤務しているので、自分が仕事を休まないといけない。子どもが祖父母になつかない。お盆に預けたが子どもがいやがった。これまで頼れたらよかつたが、頼るすきも娘が来年小学生になるので、正社員になろうと思ったが、子どものためにパートのままがいいのか

	<p>悩んでいる。フルタイムで働くと1日のタイムスケジュールが大変になる。アンケート結果で「子育てが楽しい」とあるがなんでだろうと思う。「忙しい」という感覚のほうが強いのではないか。また、中学校アンケートの相談相手で「ネット知り合った人」の割合が少ないが、実際にはもっと多いのではないか。娘がダウン症だが、定期健診でも情報が得られなかつたので、インスタグラムで先輩ママさんにいろいろと教えてもらった。もっとインターネットで相談しないのかなと思った。</p>
委員長	(今のご意見は)情報が盛りだくさん。正社員かパートか悩むというのはこの会議の核になる問題。結論が出たらそう決められた決定打についてまたお伺いしたいと思う。町の政策のおかげで変わるのかどうか。来年報告してほしい。インターネットでの相談相手は悪いイメージと思った。プラスの面でのインターネットでの活用を教えていただいた。保健師がつながることもあるので、活用を考えたらと思う。
委員	アンケート結果で「両親で子育て」が多い。実際、きらきら館でも午前中は、父親が子どもを連れてくる場合が多い。お父さんも普段から子どもに関わっている。遊ぶのに慣れている人が多い。
委員長	夏休みのきらきら館のイベントの利用はどうでしたか。
委員	イベントを実施したが、多くの方に参加していただいた。8月後半にも実施予定。
委員	中学生アンケートを見て、神河町に住みたいという子が多いので安心した。神河町は自然が豊かなので、自然に親しむ機会がもっとあればいいのになと思う。昔、町内めぐりをやっていた。サマースクールもあった。今はリーダーのなり手がいないと言われた。子どものころに参加した人たちをピックアップしてはどうか。神河町の良さをもっと知ってもらえたなら。
委員長	環境未来塾で川遊びをした。20人ほどの参加があった。もっと親しむ機会作ってもらったら。
委員	コープこうべのイベントでも、水中生物を探すのは親のほうが一生懸命になる。
委員	中学生アンケートは食育健康増進計画とリンクしている。悩みの相談相手は、前回は「いない」が同じぐらいいた。健康福祉課で情報発信しているが、相談しようかどうか迷っている人が多い。計画の13ページ、子育ての施設や小中学校の先生が多い。心配な保護者がいたら声掛けしていただいて、つなげていただきたい。不登校等の個別相談をしている。周囲の目を気にして相談を躊躇していると思う。相談すると、相談してよかったですと帰られる場合が多い。
委員	先ほどの不登校の個別相談は、今年度からの事業となる。アンケート19ページ。虐待していると感じている人の割合、比率は少ないと気になる。
委員長	関わり方ですね。他に言い残したことがございましたら。

	<p>委員　　相談相手で「民生委員」はゼロ。</p> <p>事務局　そこまで深刻な相談が無いということではないかと。</p> <p>委員　　地域に民生委員が浸透していないのかと思った。問題が無いということでしょう。</p> <p>委員長　これで議事は終了します。閉会の挨拶を。</p>
	<p>○閉会挨拶 入江委員</p> <p>たくさんのご意見を生かしながら、今後の方針などをしっかりとまとめていきたい。開会挨拶で委員長がお盆休みの話をされたが、我が家も子ども3人いる。皆遠い所に住んでいて、孫を連れて帰ってきた。楽しく遊んだのだが、息子がきつくな孫を叱っている。「叱りすぎじゃないか。」と注意すると、息子は「僕が子どもの頃はもっと叱られていた、正座させられて叱られていた。」と。私は思わず口をつぐんでしまった。</p> <p>中学生アンケートでは、3ページに『あなたは、家庭で安心して過ごせていますか』とあります。これが、92.52%がほぼ安心しているとのこと。この数字は嬉しいなと思った。ただ、一部の子が安心できないとあるのは気にかかる。『あなたは、普段家族と会話をしますか』では、96%くらいの子が、よく話すと答えてることが、嬉しい。こういうことを大切にしながら、事業計画を作り上げたいと思う。</p> <p>・今後のスケジュールについて</p> <p>○事務局説明</p> <p>素案を作成して各委員に郵送。ご意見に基づく修正後にパブリックコメントを実施。11月に第3回会議の予定。</p>